

いのち

TOP NEWS

年頭のご挨拶



岐阜県厚生農業協同組合連合会
経営管理委員会会長

堀尾 茂之

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、本会事業につきまして格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。医療を取り巻く環境は、人口減少

や少子高齢化の進展に伴う医療需要の変化への対応、医師確保困難や医師の働き方改革、医療従事者の偏在に加え、新興感染症発生・まん延時における体制整備など多くの課題を抱えております。本会においては、地域の実情に合った持続可能な医療提供体制を構築すべく国・県が推進する地域医療構想の方針に沿って、県下5医療圏のうち4医療圏において病床再編・病院統合を進めてきました。令和8年2月には、東濃厚生病院（瑞浪市）と土岐市立総合病院（土岐市）を1病院化した新病院の公立東濃中部医療センター（土岐市）が完成予定です。社会の情勢が大きく変遷していきなかなですが、本会は、医療従事者の確保・育成・定着化や医療分野



のデジタル化を推進するとともに、JAグループ、行政、地域の医療機関・介護施設等との連携体制の充実を図り、地域の中核病院として「地域住民から信頼され、必要とされる病院づくり」に役職員一丸となって取り組む所存でございます。最後になりましたが、本年が皆様にとりまして幸多き年となりますよう心よりご祈念申し上げますとともに、本会事業にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。



基本方針

- ▶ 人間尊重の医療に努めます
- ▶ 常に研鑽し、質の高い医療をめざします
- ▶ 安全で満足できる医療を提供します
- ▶ 医療をととして地域社会に貢献します

病院の理念

地域の信頼に応えるために良質な医療を行います

わたしたちは、皆様の信頼に応えるため、安全で快適な療養環境と良質な医療を提供することを常に心掛けています。

外来診療担当表

●受付時間／午前8時30分～11時30分 ●休診日／土日祝祭日 年末年始（12月29日～1月3日） 2025年1月1日現在

診療科		月	火	水	木	金	備考
内科	1診 内分泌	水谷 圭吾	大竹 宏輝			池庭 誠	※2・3診（新患） 以外は予約制
	2診 新患／血液／呼吸器	平野 達也 (呼吸器)				二村 圭祐 (呼吸器)	
	3診 新患／消化器	新見 隆夫	蓑輪/羽根田 (消化器)〈予約制〉	村山/太田	当番医 (新患)	太田／村山	
	5診 循環器／消化器／ 内科一般	近藤 浩幹 (循環器)	宇野 博人 (循環器)		野村 公志 (消化器・外科)第2、4週	塚本 英人 (循環器)	
	内分泌(透析予防)				池庭 誠 (14:00～)		
	6診 内分泌／内科一般		安藤 詩奈子 (内分泌)		太田 知英 (内科一般)	新見 隆夫 (内科一般)	
	7診 リウマチ・アレルギー 内科一般		西尾 克彦 (リウマチ・アレルギー)	新見 隆夫 (内科一般)	西尾 克彦 (リウマチ・アレルギー)	西尾 克彦 (リウマチ・アレルギー)	
	8診 血液／新患		山内 辰也 (血液内科)		山内 辰也 (血液内科)		
神経内科	2診				三竹 愛子 (予約制)		
	3診		代務医〈予約制〉	高橋 典三 (予約制)		代務医〈予約制〉	
	10診 専門外来〈予約制〉 (物忘れ・認知症)			三竹 重久 (PM)			
腎臓内科		村山 慎一郎 隔週	村山 慎一郎	三輪／村山	村山 慎一郎	松山 哲也	
外来ドック室		担当医	清水 豊	担当医	担当医	伊藤 昭宏	予約制
整形外科	1診					西本 聡(PM)	予約制
	2診	清水端 松幸	安藤 英樹		清水端 松幸	安藤 英樹	
外科	1診	安藤 修久		川西 順 (血管外科)第1、3、5週		伊藤 昭宏	
	2診	木之下 幸夫	木之下 幸夫	木之下 幸夫	木之下 幸夫		
	特殊外来〈予約制〉		AM ストーマ外来		沼波 宏樹 第1・3・5週 PM 呼吸器外科外来		予約制
小児科	1診 AM	水野 佑也	元吉 史昭	水野 佑也	水野/渡邊	水野 佑也	
	PM	予防接種	元吉 史昭 (予約制)		元吉/水野 (予約制)		予約制
	2診 AM	岡本 博之 (予約制)	中野 正大 (予約制)	渡邊 翔太	元吉/渡邊 馬場 礼三 第2週	渡邊 翔太 中野 正大 第2・4週 (予約制)	予約制
	PM			中野 正大 (予約制)	岡本 博之 第1・3週 (予約制)	中野 正大 (予約制)	
	特1 AM						
	PM						
特2	AM	渡邊 翔太	渡邊 翔太	元吉 史昭	元吉 史昭 第2週	元吉 史昭	
	PM						
耳鼻咽喉科	1診	菅 太一	車 哲成		竹内 拓馬	楊 鈞雅	
眼科	1診				白木 玲子		
産婦人科	1診	石原 豊	石原 豊	石原 豊	石原 豊	代務医	
脳神経外科	1診	辻本 真範	北島 英臣	小木曾 衛	水谷 大佑	北島 英臣	
泌尿器科	1診	代務医	金井 茂	代務医	金井 茂	金井 茂	
歯科		横井 彰	横井 彰	横井 彰	横井 彰	横井 彰	※予約制
精神科	1診	加藤 美樹 (初診のみ・完全予約制)	加藤 美樹	加藤 美樹	加藤 美樹	鈴木 幹央	※予約制
	2診				野瀬 早織	関 正樹 (特殊外来)	
皮膚科	1診						
リハビリテーション科		当 番 医	当 番 医	当 番 医	当 番 医	当 番 医	予約制

※面会時間 現在新型コロナウイルス感染症防止のため面会を制限しております。
詳しくは病棟へお尋ねください。
※各診療科担当医については、都合により変更となる場合がございます。

※精神科・歯科・小児発達外来は予約制です。新規受診の方は事前に電話でご予約をお願いいたします。
※神経内科は、新規患者の受付を行っておりません

JA岐阜厚生連 東濃中部医療センター 土岐市立総合病院 併設:土岐市老人保健施設やすらぎ・土岐市訪問看護ステーションときめき

所在地／〒509-5193 岐阜県土岐市土岐津町土岐口703番地の24 TEL／0572-55-2111(代表) FAX／0572-54-8488 URL／http://www.tokisou.gfkosei.or.jp/

Check “ 今号のTOPICS ”

冬に注意したい食中毒
「ノロウイルス」

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。さて、人が集まる機会の多い季節ですが、この時期に流行する食中毒をご存じでしょうか？11月から3月にかけて流行する「ノロウイルス」は、12月から翌1月にかけて流行のピークを迎え、昨年度の総患者数は全体の約47%を占めています。ノロウイルス対策をとり、この冬を元気に乗り越えましょう。

ここが怖いよ「ノロウイルス」

- 無症状で保菌している場合があります、1週間から1か月程度、糞便中にウイルスの排出が続く
- 感染力が強く、少量で発症する
- 主に二枚貝に生息しているが、食中毒事件の約7割は原因食品が特定できていない

ウイルスに感染した食品取扱者を介して爆発的に感染が広がります

潜伏期間	24 時間から 48 時間
症状	下痢、腹痛、嘔気、嘔吐など

1 拡げない
「消毒」

「次亜塩素酸ナトリウム」
定期的な消毒・清掃・汚物の適切な処理を行いましょう

2 つけない
「手洗い」

こまめな手洗い
石鹸でウイルスは死滅しないため十分に流しましょう

3 やっつける
「加熱」

十分な加熱
85～90度90秒以上
中心まで火を通しましょう

4 持ち込まない
「管理」

体調は万全ですか？
同居家族の下痢や嘔吐にも注意が必要です

「ノロウイルス」の四原則

産後ケア 始めました
専属助産師によるサポート体制

◎対象者：土岐市及び瑞浪市在住で、生後4か月までの乳児とそのママ

- ・産後ケア専門に助産師が対応しますのでゆっくりと気軽に相談したり、お話しできます。
- ・お食事は管理栄養士によるバランスのとれたお食事と、ささやかなおやつをお楽しみ下さい。

宿泊：1泊2日

宿泊型

ゆったりお泊まりしてケアをご希望の方に
休みながら
ゆったりとした方にオススメ

日帰り：最大7日

日帰り型

気分転換に外出して
ケアをご希望の方に
夜はお家で寝たい方にオススメ

詳しくは、土岐市役所：健康福祉部 こども家庭課 こども家庭センターへお尋ねください。

お問い合わせ 土岐市役所 こども家庭課 こども家庭センター TEL:0572-54-1386 (直通)

Greetings

病院長より「年頭のご挨拶」

2025

HAPPY NEW YEAR



病院長
安藤 修久

新春あけましておめでとうございます。皆様すこやかに新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は当院の運営につき、格別のご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

発生から5年が経過したコロナ禍も、免疫の獲得やウイルスの弱毒化とともに、実質的には終焉を迎えたと推量されます。長きにわたりコロナ対策に奔放して来た私どもの医療現場も、ようやく従来の診療体制を取り戻しつつあります。今回の年末年始は暦の上では9連休でしたが、当院は職員の努力により連日24時間体制で、主に脳卒中（脳出血や脳梗塞など）の患者の受け入れに尽力して参りました。

さて、昨年を振り返りますと、やはり元日に起こった能登半島地震が真っ先に思い起こされます。追い討ちをかけるような9月の豪雨被害も重なり、能登のライフラインは寸断され現在も復旧は遅々として進んでおりません。医療の現場においても、道路の遮断により医療資源が枯渇し、停電や断水により手術や透析の施行に影響が出たり、医療従事者自身が被災したりと、金沢や県外の病院へ重症患者を転院させたりする必要に迫られました。また元々が過疎地域であり、医療施設の復興にも見通しが立たず、止むを得ず土地を離れる住民も少なくないようです。地震多発国である日本に暮らす我々としては、今回の地震も他人事ではありません。今後30年以内に発生する確率が70から80%とも予測される南海トラフ地震では、東海地方にも相当の被害が及ぶと想定されており、今から十分な対策を進めておくことが必須です。

建設が進む新病院「公立東濃中部医療センター」では、“災害医療”を大きなテーマの一つに掲げております。現在その外観を表しつつある地上7階建の病院棟は、東日本大震災クラスの揺れに耐えられる免震構造を採用し、屋上には患者搬送用のヘリポートを設置します。非常用電源、燃料、非常用水、食糧、薬品等を3日以上備蓄し、単独稼働を可能にします。災害発生時には医療拠点として多くの傷病者を受け入れるとともに、状況によっては院内の多目的ホールや会議室を利用して近隣の避難住民を受け入れ、避難拠点としての役割も担います。また災害派遣医療チームを結成し、局地災害に対し医療チームの派遣を行う予定です。このように新病院は単なる医療施設に留まらず、東濃地域の住民が将来にわたって安心してこの土地に暮らしていくための心の拠り所であり、皆さんの安全と生命を守るシンボルでありたいと考えています。開院はもう間もなく、来年2月に迫りました。職員一同心を一つにして、新病院のスタートに向けて準備を進めて参ります。

末筆となりましたが、ここに謹んで新しい年の皆様の一層の御多幸と御健勝をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。